

茨高
茨中

春秋

発行
茨高・茨中 P T A
代表 安 隆 之
編集
茨高・茨中文化広報委員会
水戸市八幡町 16-1
電話 029(221)4936
茨高・茨中公式ホームページ
<http://www.ibaraki-jsh.ed.jp>
印刷 いばらき印刷(株)



是非ご家庭で
確認してください！
PTA会長 安 隆 之

PTA会員の皆様におかれましては、平素より茨城中学・高等学校における PTA 活動にご理解・ご協力を賜りまして誠にありがとうございます。

さて、最近、これまでの日本の常識では考えられないような若者をターゲットとする事件が連日報道されています。年頃の子供を持つ親として、何とも不安な気持ちになります。

特に、闇バイト（私はこの呼び名自体が、非常に軽い感じがすることからよくないと考えています。）と呼ばれる、刑法上も重罪である強盗罪（刑法二二六条一項、五年以上の拘禁刑）に、考えられないくらい簡単に共犯者として加わる若者達が摘発されています。

ちなみに、強盗の際に人を負傷させた場合には強盗致傷罪（刑法二四〇条前段、無期または六年以上の拘禁刑）となり、人を死亡させたときは強盗致死罪（刑法二四〇条後段、死刑又は無期拘禁刑）となり、単純強盗罪よりも重く罰せられることとなります。強盗致死罪に至っては、通常の殺人罪（刑法一九九条、死刑又は無期若しくは五年以上の拘禁刑）よりも重い罰則が適用される極めて重大な犯罪です。なお、皆さんも聞いたことがある執行猶予は、三年以下の拘禁刑の場合に付する

ことが可能（刑法二五一条一項）ですから、強盗事件においては要件を充たしていませんので、まず実刑になることを覚悟しなければなりません。

このような重大な犯罪である強盗（闇バイト）に若者が関与する理由には一般的に次のようなものが考えられています。

一つ目が、SNSの影響です。SNSは、闇バイトの募集が行われる主要なプラットフォームとなつてしまつています。高額報酬や即日払いといった魅力的な条件が提示され、若者が簡単に応募してしまうことが多いとされます。SNSの使い方について今一度確認する必要があるのではないのでしょうか。

二つ目が、経済的な困窮や即金が必要な状況にある若者が、闇バイトに手を出す傾向があるとされます。特に、学費や生活費を稼ぐために、リスクを顧み



ずに応募するケースが見られるようです。ご家庭の事情はあると思いますが、ある程度までは親の努力も必要かもしれません。

三つ目が、無知と無関心により闇バイトの危険性や違法性についての知識が不足している若者が多く、犯罪に巻き込まれるリスクが高まつており、これだけ世間で騒がれているにもかかわらずニュースや警告に対する関心が低い、危険を認識しないまま応募してしまうことがあるようです。

加えて、闇バイトの募集は非常に巧妙に行われ、一度関与すると、個人情報や握られたり、脅迫されたりして、抜け出せなくなるケースもあります。仮に闇バイト等に応募してしまつて、最悪、個人情報

報等が握られたとしても、実際に報復を受ける可能性は少ないと思います。自分自身が強盗犯人になって人生を棒に振るよりはマシだと思います。警察においても相談窓口を設置するなど対策が進んでいますので、躊躇なく助けを求めるようお願いすると確認してください。

本来であれば、皆様に前向きなご挨拶をお伝えしたいところではありましたが、昨今の状況は看過できない状況であると考えます。

今回お伝えした内容を、是非とも、ご家庭でお子さんを交えてお話ししていただき、ニュース等への関心を高めて少しでも自己防衛を図れるようになる機会を設けていただければ幸いです。



百年の豊穰

校長 梶 克 治

コロンビアの作家ガルシア・マルケスの小説で、一九六七年に発表された『百年の孤独』が、なぜか今ベストセラーになつて

いるようです。夏休みに入つたところに入つた書店で、一番目立つところに『百年の孤独』の文庫本が大量に平積みされていて、流行りに乗つて購入してみました。クセ強めの独特の文体、登場人物の複雑な関係性、入り組んだストーリーに翻弄されながら、六百ページあまりの小説を読了しました。なかなか読み応え

いきます。現実とファンタジーが錯綜する（マジック・リアリズムというらしい）世界観は、大江健三郎などにも影響を与えたと解説に書かれていて、なるほどと思いました。

ブエンディア一族の物語は、百年後に起こつたある事件をもつて結末を迎えます。読み終えて自分はふと、なぜ百年なのだろう？と疑問に思いました。十年でも、千年でもなく百年なのはなぜだろう？もしかしたら、一人の人間が自分の生きる時代を鳥の目で見渡したとき、実感を持つて認識できる時間の限界が百年なのかもしれません。百年であることが、きつと、この物語にとつて大切な意味を持つのでしょうか。

茨城高等学校・中学校は、二〇二七年、創立百年を迎えます。その百年という時間の中には、飯村丈三郎先生が残してくれた「報恩感謝」の教えを中心に、何万人もの生徒、保護者、教師たちの豊かな物語が渦巻くように存在しているはずなんです。『百年の孤独』は百年で終わりを告げる物語でした。しかし、茨城高校・中学の百年は豊穰の時を迎え、さらなる百年への扉が開かれようとしています。今、私たちは新たな百年の黎明を目の当たりにしているのかも知れません。

未来へつなげる「報恩感謝」のバトンは今、生徒諸君の、保護者や教師たちの、そして茨城高校・中学に縁を結ぶすべての人たちの掌の中にあるのです。

高校クラスマッチ 2024前期

9月13日

総合順位

<3年生>	1位D組	2位C組	3位E組
<2年生>	1位C組	2位A組	3位D組
<1年生>	1位A組	2位E組	3位B組

高三D 塚田 大翔

高校生活最後のクラスマッチ、僕は今のクラスのメンバーでなければ優勝できなかったと思います。クラス全員が一丸となってお互いを信頼し合い、全力で戦うことができたからこそ、目標であった優勝を掴み取ることができました。高校生活の中で最高のクラスメイトとの忘れられない思い出になりました。



今回のクラスマッチはこれまでと異なる競技も多く、勉強からは一旦離れて全力で楽しめた一日になりました。私たちのクラスは総合優勝する事ができました。クラス全員で協力する事ができ、記憶に残るものとなった今回のクラスマッチ、関わった人全てに感謝を伝えたいです。

高二C 立山 沙都



高校生活が始まってすぐにA組の団結力の強さを感じました。文化祭、日々の授業としてクラスマッチを通してより一層クラスの仲が深まりました。優勝を飾ることができました。優勝が決まった瞬間、クラス全体が喜びと笑顔に満ち溢れました。後期も絶対に楽しみたいので優勝しますA組最高バモス!!

高一A 山本 歩実



私達はクラスマッチに向けてたくさん練習をしました。ドッジボールでは、休み時間に自分たちで練習をしました。結果は二位でしたが、クラスの仲が深まりました。リレーは先生と陸上部の助言で走りました。陸上部の失点を決めた所を聞いて、改善しました。一位になつて優勝しました。一位になつても嬉しいクラスマッチでした。

中二 クラスマッチ優勝
中二 D 吉田 史咲 杜

初めてのクラスマッチで私達のクラスは元気に競技に取り組み一位を取ることができました。自分が見に行き応援したり、円陣を組み気合を入れました。他のクラスの人も褒め合うこともあり、とても良いクラスマッチができたと思います。今回は生徒会メンバーだったので本部に行き、結果を書いたりもしていました。今回先輩達のことを後期に活かし、先輩方を見習いながら頑張っていきたいです。

中三 クラスマッチ優勝
中三 A 松浦 成海

結果

<3年生>

1位A組 2位B組
3位D組 4位C組

<2年生>

1位D組 2位C組
3位A組 4位B組

<1年生>

1位A組 2位B組
2位C組 3位D組

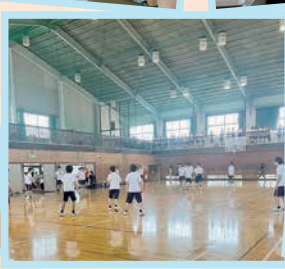
各クラス

頑張りました!



2024前期 中学クラスマッチ

9月13日



高二研修旅行

カナダ 教員 原 健一

カナダ研修旅行は八十八名全員がホームステイをしました。多民族国家カナダは家庭も色々で、多種多様な文化体験をしました。高校訪問では、歓迎セレモニーでブラスバンドが感動的な演奏で迎えてくれました。アイスホッケー観戦や大学訪問も忘れ難いです。何より「生活の中で英語を話す」ことを体験した貴重な旅行でした。

高二C 天野 碧海

研修旅行を通じて様々な体験ができました。現地の学校訪問や、ホームステイを経験し、人々の考え方や価値観が日本と違っていることを強く感じました。一番印象に残っていることは現地の大学生と一緒にダウンタウン散策をしたことです。観光地を訪れるよりも、英語でコミュニケーションが出来る事が嬉しかったです。



高二F 合田 明愛

カナダのホストファミリーは、夏にボランティアで訪れたフィリピン出身の方でした。フィリピンについて朝四時まで話が弾み、楽しかったです。現地校でスピーチをした際に、ブラスバンドのキャップを頂くことができました。良い記念になりました。この研修旅行をきっかけに進路で英語関係も視野に入れたと思います。

シンガポール 教員 秋山 崇

五年ぶりのシンガポール海外研修を無事実施することができました。生徒たちは現地企業視察・カンポン体験・ホームステイ・B&Sプログラム等の研修を通し、アジアとイギリスの文化・宗教観・言語が混在する国の様子に感じ取ったことでしょう。異文化や異見を互いに理解しあう重要さを得てきたと感じます。

高二F 遠藤 想大

私の研修旅行先はシンガポールでした。その中で、とても印象に残っているのは、一日だけ行われたホームステイです。各班ごとに各家庭に送られ、私の班は中華系の家庭でしたが、他にも色々な民族や宗教を持つ家庭が多くありました。多様性を謳うシンガポールならではの光景がとても記憶に残っています。

高二D 高木 花音

私にとって初めての海外は、まるで月に行く位遠い存在で、日本に無事に帰ってくる事ができるのか、会話は通じるのか、研修旅行前には不安でいっぱいでした。けれども、出会った人たちは優しく、会話もなんとなくかなりしました。シンガポール・マレーシアで過ごした時間は新しい発見の連続で、とても楽しく、満喫できました。



台湾 教員 荻谷 英子

台湾コースは男女十一名が参加しました。二日目は高校と大学での学校交流、三日目はB&Sプログラムで大学生と市内観光、四日目は九份・故宮博物院・中正

台湾コースは男女十一名が参加しました。二日目は高校と大学での学校交流、三日目はB&Sプログラムで大学生と市内観光、四日目は九份・故宮博物院・中正



高二A 奥田さくら

台湾での研修旅行では現地の高校生や大学生と交流したり、二班に分かれて自由行動をしました。印象に残ったことはレストランでのお食事です。特に小籠包や炒め物が絶品で、唐辛子も食べました。一方、華やかな景観とは裏腹に、夜市では物乞いをする人を何人も目にしました。楽しいだけでは終わらない五日間になりました。

高二E 大津 美月

台湾への研修旅行は文化の違いを体験できた良い機会でした。自由行動にて龍山寺を訪れた際にたくさんの人がお経を唱えていて、見慣れない光景に衝撃を受けました。また、日本の文化を台湾の学生さんに話す際に日本の文化をよく知らないと実感しました。台湾の文化を知るとともに日本の文化をもっと知ろうと思いました。

国際教養コース

ニュージーランドへの留学を終えて

高二G 藤田 渚央

私は、ニュージーランドでの生活を通して英語力以上に、人間的に成長することができました。海外に一人置かれた中で感じた困難は多く、将来への不安、自分の理想と現実との葛藤、勉強への焦りなどを感じ、留学中何度も心が折れそうになりました。そんな時いつも私を支えてくれたのはホストファミリーでした。彼らの温かい心に触れて、改めて「人とのつながり」の大切さを知りました。彼らのおかげで前に進むことができました。大変でしたが、困難を克服したからこそ今の自分があります。留学での経験を胸にこれからも夢に向かって走り続けていきたいです。



中三研修旅行 十月十六、十九日

中三学年主任 佐藤麻希絵

十月十六日～十九日、奈良・京都への研修旅行に行ってきました。一日目は興福寺、春日大社、東大寺へ。鹿と茨城県との関係に驚いた人も多かったようです！東大寺ナイトウォークでは、美しい月夜と鐘の音を堪能しました。二日目は薬師寺での法話。いろいろな気づきがあり、またこちらも茨城県とのゆかりがありました。三日目のタクシー研修も、「研修」の名にふさわしい、楽しく充実したものでした。二十八期生皆の思い出に残る、すてきな研修旅行となりました。

実行委員長 小清水千紘

研修旅行は数多の学びをくれた。京都の桂離宮では美しい庭園や茶の知識を知ることが出来た。庭園に敷かれている石一つ一つに意味が有り興味深かった。月は直接見るより池や急須に映った月を見る事に趣があるという感性にも感銘を受けた。また、ガイドさんが「大仏は表裏で雰囲気が違う。人も表だけで見てはいけない。」と仰っていた。私は旅行中同級生の新たな一面に多く助けられた事を思い出した。私の胸にはその言葉が深く刻まれている。



中三A 武井 詩

皆さん研修旅行お疲れ様でした。我が担任安達先生も含め、ずっとみんなが楽しみにしていた研修旅行も終わっちゃいましたね。でも思い返すと、本当にあつという間だったと思います。ホテルで部屋の外に出ると、どこかでめっちゃめっちゃ笑っていたりドタバタしてる音が聞こえたりと、みんな楽しそうにしているのを聞いて、このA組で研修旅行に行けて本当に良かったと思えました。A組としての行事も少なくなってきましたが、今後も全力で楽しみましょう！



中三B 海老沢奈々

奈良・京都に思いをはせながら色々計画した研修旅行。振り返ってみると本当に楽しくてあつという間でした。三泊四日の中で多くの寺社仏閣や古い街並みを巡る事によって歴史の深さを感じることができました。私の中で、一つの部屋で大人数で過ごしたことや、東大寺でのナイトウォークツアーなど非日常的な時間を過ごすことができ、最高の思い出になりました。最後に研修旅行に携わっていただいた先生方、そして全ての方々に感謝したいと思います。



中三C 高柳祐一朗

待ちに待った研修旅行！法隆寺や東大寺、平等院など次々と現れる国宝に皆興味津々でした。さらには、薬師寺でお坊さんの法話を聞いたり、能楽堂で能と狂言を鑑賞したり、日本の文化の面白さや美しさを実感できた貴重な体験となりました。私の班のタクシー研修では、嵐山の竹林を訪れ、祇園ではおいしいおいしい抹茶スイーツを食べ、充実した一日になりました！最後に、最高の思い出を作ってくださった先生方、本当にありがとうございました。



中三D 大山 詩央

奈良・京都研修旅行では沢山の寺社仏閣を訪れましたが、その中で私が一番感慨深かったのは慈光院での「おもてなしの心を何よりも大切にして生きなさい。」です。慈光院は日本で唯一、家や庭園までも含めて茶室が残されている所です。そこでは形、流派だけではなくて、茶道はまず人々が相手をおもてなししてリラックスできるようにと始まったものだとか教わりました。私は茶道を習う身、一人の人間としてこの考えを大切にして生きていきたいと思いました。



JRC 研修活動

高二F 田川 京華

この研修を通して、私はJRC活動の「主体性」について考えさせられた。マレーシア赤新月社本社を訪れたとき、ユースボランティアの代表は「我々がやりたいと考えたことは集会を開き上層部と協議している」と語った。また、会議は自分の意見が反映される機会だから「会議を毎回楽しみにしている」と。私ははっとした。私達のJRC活動は、いわば受動的なものだったからだ。私はもっと主体的に活動できる環境を茨城高校JRCで作っていききたいと思った。約一週間濃密なスケジュールで国際交流活動を行った、マレーシアで得たこの経験を日本での今後の活動に活かしていきたい。マレーシアでお世話になった現地の方々、三ヶ月間指導してくださった指導員の先生方や日本赤十字社の先生、苦楽を共にした各県代表の皆さんに感謝しています。

高二E 小林 未生

日本赤十字社茨城県支部の代表生徒として行ったマレーシア研修で私は、素晴らしい経験をすることができました。飛行機で七時間、私にとって初めての海外であるマレー



シアにたどり着き、私は不安や緊張でいっぱいでした。しかし同時に、ほとんどの言葉が読めず、聞き取ることができない、といった自分の知らないことが世界を身をもつて知ることにとでもわくわくしていました。主な活動である、マレーシア赤新月社やIFRCへの訪問、現地の学校の生徒たちとの交流、現地の様々な種類の料理を食べる、街の視察などは、全て私にとって新鮮な体験でした。特に印象的だったことは、マレーシアでは宗教などの違いがありつつも国民全体のまとまりを感じたことです。多民族国家であるマレーシアで、日本とは少し異なった価値観を知ることができました。

屋久島自然探求活動

教員 檜山 俊彦

理科主催のサイエンス研修が、令和六年七月二十九日から五泊六日の日程で行われ、高校生十二名、中学生十二名が参加しました。今年の研修地は、日本初の世界自然遺産に登録された屋久島で、貴重な自然を舞台に国内のエコツアーの基礎を築いた「屋久島野外活動総合センター（YNACC）」の協力のもと、「野生動物」「海洋生物」「植生の垂直分布」「潮間帯の生物」という四つのテーマに沿ったフィールドワークに取り組みました。



「野生動物調査」では、照葉樹林の森でヤクザルやヤクシカに出会い、半山川では川の生き物たちに触れ、大きなガジュマルを観察しながら自然の息吹を感じました。「海洋生物観察」では、スノーケリングの基礎技術を学び、海に出てカクレクマノミやサンゴを観察し、優雅に泳ぐアオウミガメの姿に感動しました。「植物の垂直分布」では、標高によって照葉樹林の森が屋久杉の森へ移行する様子を目で確かめ、原始の森を感じさせる屋久杉原生林の中を歩きました。樹齢三千年という巨大な紀元杉に直に触れ、生徒たちはその存在に圧倒されていました。「潮間帯の生物」では、海と陸の境界線を生物相の変化から探る実習に取り組み、潮だまりの様々な生物を夢中になって探しました。

また、ウミガメ協議会の協力でアカウミガメのふ化調査にも参加し、ウミガメの放流を行いました。生徒たちは、小さなウミガメの愛らしさに感激していました。夜には星空観察を行い、夏の星座や天の川を楽しみ、夜空の美しさに心を奪われました。美しく豊かな自然の中での活動は、生徒たちにとってかけがえのない経験となりました。この研修を通じて、自然への理解を深め、自然の大切さを改めて認識することができたのではないのでしょうか。



水戸インスティテュート

高三C 関 将徳

昔と比べて閑散としている水戸のまちを活性化し、地域のひとに水戸を再発見してもらおうと始まったMito teens' Festivalは今年で三年目となる。今年度はメンバーが少なく困難もあったが、先輩、先生、共同主催である水戸オーパのスタッフ、警察、市役所の公務員の方など多くのひとに支えられて開催することができた。地域の飲食店による地元の野菜の地産地消の推進や、障害のある方々の活動を取り上げ、地域の社会貢献活動を多くの人に伝えることができた。水戸のまちを盛り上げることに少しは貢献できたのではないかと思う。後輩にこのイベントを引き継ぐとともに、このイベントで生まれたつながりを大事にしたい。

atama+

教員 横倉 友博

今年度からAI学習アプリ「atama+」を活用した自習空間「スタディーホール」を設けました。

atama+は、問題を解くたびに生徒の理解度を分析し、理解度に応じた適切な問題を自動的に出題する機能を備えており、生徒一人ひとりに合わせた学習が可能。また、専用の空間スタディーホールでは、常駐する学習アドバイザーが生徒の学習状況を把握しながら適切なアドバイスを提供してくれます。利用者からは、「分かるところまで戻れる」「楽しく学べる」といった好評の声が上がっています。スタディーホールの活用を通して、基礎学力の向上を目指すのはもちろんですが、自主的に学ぶ姿勢と学習時間のマネジメント感覚を養ってほしいと思っています。



カルチャーブリッジプログラム

教員 青木健一郎

今年も東大大学院に籍を置く講師陣による指導の下三日間に渡る特別セミナーが行われた。テーマは日本文化やロールモデルの紹介など多岐に及んだが、中には心打たれる発表もあった。

このプログラムでは誰しもが言語が思い通りにならない体験をする。そのため参加者は自己の無力さ／悔しさと向き合わざるを得ない。しかしその原体験こそが人を覚醒させ、次なる真剣勝負へと駆り立てる。この経験を糧に参加者たちは、静かな情熱を胸に秘めて言語習得という終わりのなき旅路につくのだ。

高二F 磯崎 友理

私は、夏休みにこのプログラムに参加し、英語という言語を通して、「自分とはなにか」ということについて深く考え



ることができました。英語という使える表現の少ない言語を使うことで、自分の気持ちの輪郭を言葉を超えて感ずることができました。その輪郭を言葉にしたいと切望する気持ちがある本質、本当の自分である、ということに気がつくことができたのです。

私はカルチャーブリッジプログラムを通じて、海外からの留学生とコミュニケーションをとることで様々な国の文化を知ることができました。さらに、他の国の文化だけでなく世界の情勢や自分の国にももつと興味を持つことができました。最後に、私のような拙い英語しか話せない者でもちゃんとした会話になるようにサポートしてくれた海外からの留学生に心から感謝したいと思います!!

中三B 山田 優希

私はカルチャーブリッジプログラムを通じて、海外からの留学生とコミュニケーションをとることで様々な国の文化を知ることができました。さらに、他の国の文化だけでなく世界の情勢や自分の国にももつと興味を持つことができました。最後に、私のような拙い英語しか話せない者でもちゃんとした会話になるようにサポートしてくれた海外からの留学生に心から感謝したいと思います!!



大学見学

進路指導部 秋田 拓郎

七月三十日・三十一日に東北大学各キャンパスで行われたオープンキャンパス見学会に、本校の高校一・二年生延べ六十六名が参加した。最も強く印象に残っているプログラムは本校OBである石山和志教授の講演である。石山教授にはご専門の生体電磁情報に関するお話だけでなく、東北大学電気通信研究所の歴史や、日本の産業の歴史や今後の展望について大変強い熱量でもってお話をいただいた。講演後、生徒から質問が多数飛び交い、刺激を受けた生徒は多かったのではないだろうか。生徒にとって「初めて話した大学の先生が石山先生」



であつたら、とても幸運なことだと思ふ。今年参加できなかった生徒は、ぜひ来年参加してみてはいかがだろうか。

高二E 菊地 修也

茨城高校に到着して、長時間バスに揺られ、国内でもトップレベルの東北大学に着いた時、とても心が弾みました。オープンキャンパスの内容として石山先生の講義、各学部の見学がありました。中でも印象的なのは卒業生との夕食です。夕食は本校卒業生で現在東北大学生の方々と受験のことや、大学生活のこと、私生活のことなど数多くの役に立つ話を頂きました。今回のオープンキャンパスで得た経験を受験に活かしていきます。



探究学習

教員 伊理 雄一

自分自身で興味関心を発見し、調べ学習を行う期間、また調べ学習で解決できなかった疑問について、調査を通して結論を出す期間があり、年間を通して一つの成果物にまとめ上げます。学年の各教員が「ゼミ」という形で、似た興味を持つ生徒を集めて指導にあたっております。

九月末に行った中間発表では、二・三人一組となり、興味のある事柄について調べ学習をし、一枚のポスターにまとめて発表しました。初めての発表活動でしたが、投げかけられた質問にも的確に答える姿が見えました。



校外研修会

PTA役員 横田 文字

今年は栃木県にあります国際医療福祉大学へ行ってきました。現地では五人の卒業生による講義があり受験期の親の関わり方など大変興味深い経験談を聞くことができました。また、その後は薬学部の実習室などを見学し知識だけでなく実際に社会にでてすぐに役立つことを学べる施設だと感じました。帰りに立ち寄った道の駅ではジェラートを食すなど充実した研修会となったこと関係者並びに参加者の皆様に感謝いたします。来年度も皆様のご参加をお待ちしております。



中二 林間学校

中二年主任 及川 純

実行委員長

中二C 鈴木 京弥

中学二年生は七月二十九日から三十一日の日程で、林間学校を実施しました。行き先は福島方面。一日目は、自然ガイドさんの話を聞きながら五色沼周辺の湖沼群に驚きながら、裏磐梯の雄大な自然を満喫しました。

二日目は、残念ながら雨天時バージョンでの実施となりました。雄国沼周辺散策、会津藩校の日新館、白虎隊の悲劇の舞台になった飯盛山、螺旋構造で有名なさざえ堂、会津の文化と歴史に触れました。そして、夜は実行委員会企画で大盛り上がり！磐梯山登山はできませんでしたが、とても濃い一日でした。

三日目は、コースごとに分かれて体験活動でした。サイクリング・釣り・トレッキング・自然塾。そして最後に鶴ヶ城を見学しました。



僕達は林間学校で沢山のことを体験しました。一日目は、五色沼でトレッキングをしました。五色沼は、沼ごとにいろいろな色をしていることから名がついており、数多くの沼があつて、とても綺麗でした。二日目は、天気が良くなかったためハイキングではなく雄国沼でトレッキングをしました。ハイキングができなかったのは残念でしたが、頂上では雲の上で写真を撮ることができました。二日目の夜オリエンテーションでマルバツゲームとビンゴをし、皆で盛り上がりました。三日目は、選択別行動をしました。選択別行動では、サイクリングやロープウエイを各々楽しみました。林間学校でたくさんのお話を学ぶことができ、とても良い経験になりました。



七月二十九日～三十一日
福島方面



英語プレゼンテーション フォーラム

県知事賞受賞!!

高三C 杉野 一貴

長期間準備して、英語のプレゼンに挑んだ経験は、非常に貴重なものとなりました。六月初めから約二ヶ月半にわたり、チーム五人で何度も意見を交わし、徹底的に練習を重ねて、ようやく本番を迎えることができました。この二年間、先輩方は準優勝や優勝といった素晴らしい成績を収めており、連覇への期待とプレッシャーが共に大きなものでした。我々は、若者の投票率にフォーカスして、将来的に起こり得る問題を身近な視点から掘り下げました。第二言語で社会問題について考え、説明することはとても大変でしたが、英語力を含め、課題解決能力が向上したと実感しています。本当に楽しかったので、ぜひ来年参加してみてください！



夏休み テーマ別課外

◆筑波大キャンパスツアー

中二C 大野真亜里

テーマ別課外の「筑波大学キャンパスツアー」に参加しました。キャンパスはとても広く、学生は構内を自転車で移動すると聞き驚きました。施設も充実していて、私が特に感動したのは図書館です。五階建てで蔵書数が多く、知りたいことを何でも調べられそうでした。憧れの学食も利用でき、キャンパスを眺めながら食べる昼食はさらにおいしく感じました。また、茨高出身の大学生の方々にお話を伺うことができ、私達の質問にも親身に答えてくださいました。大学について考えることができた貴重な経験でした。



◆Hola!

楽しいスペイン語講座

教員 金子 泰子

中学生・高校生計十五名の生徒が講座に参加しました。前半は、食事や有名な建造物などスペインの歴史や文化について触れ、また、スペイン語のアルファベットや男性名詞・女性名詞などの簡単な文法について学びました。後半は実践編ということで、スペイン語の挨拶や自己紹介、レストランでの会話練習をスペイン産のジュースを飲みながら、楽しい雰囲気の中で行いました。スペイン語はスペイン以外の中南米などの多くの国々で話されている言語です。生徒たちにはこれからも日本以外の国々や言語に興味を持って欲しいと思います。

